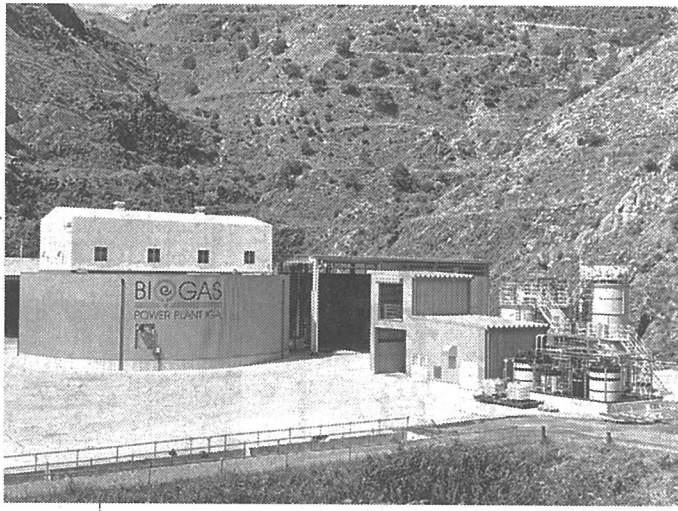


# 堆肥化と発電で食リ推進

## 消化液の液肥利用を研究

### 大栄工業

木くずや食品残さ等のリサイクルで実績を持つ大栄工業(三重県



三重県伊賀市でバイオガス発電施設が稼働

伊賀市、山本文生社長)は、昨年7月に着工し、建設を進めていたバイオガス発電施設が完成、本格的に稼働を開始した。処理能力は日量62・3ト(24時間稼働)で、汚泥や廃油、廃酸、廃アルカリ、動植物性残さ、家畜ふん尿の受け入れが可能。主に産廃・一廃由来の食品残さによる発電を行う方針で、食品リサイクルの手法を増やし、堆肥事業と並行して受入量の拡大を図る。

投入した原料をメタン発酵した際、排出される消化液の排水処理システムとして、栗田工業が市場展開している「ANAMMOX(アナモックス)プロセス」を採用。国内のバイオガス発電施設で2例目の導入となった。従来の排水処理(硝化脱窒)に比べ、有機物の添加を必要とせず、全量の硝化が不要なため必要酸素量が少なくてすむ。また、汚泥発生量も抑えられるという。

同社は現在、三重県工業研究所と消化液の

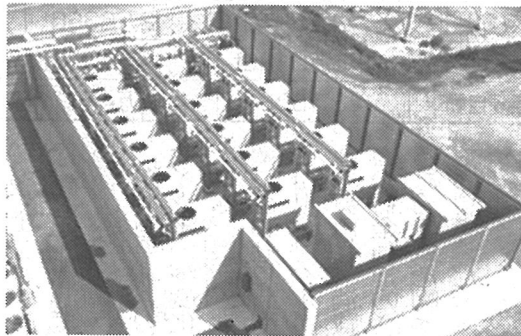
液肥活用について共同研究しており、「全量を液肥利用できるように実証・研究を重ねていく」とした。将来的に液肥を活用した農業を自社で手掛けることも視野に入れている。

堆肥化事業は2003年から開始。中部、関西にかけて幅広い食品残さや家庭生ごみを収集している。奈良県斑鳩町から排出される家庭生ごみや木くず・草類などについては、委託による堆肥化事業を推進。同町で分別に協力する世帯は約6700世帯に上る。

同社担当者は、「堆肥の年間生産量は約2万5000立方メートル。今後、給食ごみやコンビニから排出される弁当等からの受け入れを増やしていきたい」とした。(関連記事1面)

## 玉津処理場で消化ガス発電開始

神鋼環境ソリューション  
900世帯分の電力供給へ



発電設備

神鋼環境ソリューションは、玉津処理場(神戸市)で消化ガス発電事業を開始させた。民営方式で実施するもの。下水処理の過程で発生する消化ガスを高度精製した「こうべバイオガス」を市から買い取って発電を行い、FIT制度を活用して電力会社に売電する流れだ。

この事業では、同社

と、大阪ガスの100%子会社でエネルギー関連設備の販売等を行うOGCTS(大阪市)がグループを構成。2017年6月19日に神戸市と基本協定を締結して同処理場内で建設を進めていた。今回、試運転による調整を経て5月1日に本格稼働した。

新設備として、消化ガスエンジン25基×18台(発電容量450キロワット)一式を設置。発電量は最大で年間31

所の西原弘社長が「これからの廃棄物処理業

約900世帯に見込む。今行っ予定だの処理過程

## 「有機善循環」等を紹介



北海道から福岡県まで多くの企